愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	専門演習Ⅳ		
担当者(Instructors)	伊藤 恵美子	配当年次(Dividend year)	4
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

専門演習Ⅲから引き続いて卒業研究を進め、大学4年間の学びの集大成として完成させます。研究の進捗状況を記した「卒業研究ノート」を活用していきましょう。卒業研究の執筆・専門演習発表大会を通して情報の収集と分析、論理的思考、文章作成、及びプレゼンテーションの能力を養います。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	授業は演習形式で行います。 プレゼンテーション後の議論から結論を導き、並行して個別指導も行います。 先行研究、「卒業研究ノート」、PCを毎回の授業に必ず持参すること。 無断欠席は認められないので留意すること。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション 第一草稿の提出	夏季休暇の報告、個人面談（1） 第一草稿の確認	□
第2回	2025年度後期計画	後期の学修と学生生活の計画、個人面談（2）	□
第3回	ペアワーク（1）	第一草稿の確認から、議論へ	□
第4回	ペアワーク（2）	第一草稿の確認から、議論へ	□
第5回	ペアワーク（3）	第一草稿の確認から、議論へ	□
第6回	資料収集	最新データ・新刊本の確認	□
第7回	第二草稿の提出	第一草稿の訂正・最新データの入替など	□
第8回	ペアワークと個人指導（1）	表現形式のチェックから、推敲へ	□
第9回	ペアワークと個人指導（2）	表現形式のチェックから、推敲へ	□
第10回	ペアワークと個人指導（3）	表現形式のチェックから、推敲へ	□
第11回	最終稿の提出	推敲した原稿の再チェックから、提出へ	□
第12回	専門演習発表大会の準備（1）	専門演習発表大会で使用するスライド作成	□
第13回	専門演習発表大会の準備（2）	専門演習発表大会のリハーサル	□
第14回	卒業研究の発表会	演習内での卒業研究の発表	□
第15回	まとめ	4年間の学びの総括	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

卒業研究に必要な資料を収集して読んで（2時間程度）、分析して文章化すること（2時間程度）。 「卒業研究ノート」に進捗状況と考察過程を記載すること。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

卒業研究の指導は最終的には個別で行います。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)

思考力・判断力・表現力	◆ 2021地域ビジネスDP2	大学生らしい広い視野・柔軟な発想から、人類が直面している社会的課題の解決を資料を分析しつつ、自ら判断を下し、それを客観的な文章にまとめることができる。
主体性	◆ 2021地域ビジネスDP3	授業期間のみならず、夏季・春季の長期休暇中も「卒業研究ノート」を活用して自主的・計画的に研究を進めることができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			80%	20%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内試験：卒業研究　その他：「卒業研究ノート」

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	近藤裕子・由井恭子・春日美穂（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房【購入必須】	978-4-89476-970-0
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	村岡貴子・因京子・仁科喜久子（2013）『論文作成のための文章力向上プログラム：アカデミック・ライティングの核心をつかむ』大阪大学出版会	
2		
3		
4		
5		